

第4回サピエンス進化医学研究センター研究交流セミナー

マウスモデルを用いた子宮疾患研究と サイエンスコモンズが提供する研究支援について

開催趣旨

学内外での研究交流や知識・技術共有等を主として当研究センターが実施する様々な研究分野に関する最新動向（トレンド）やその分野の基本となる研究知識や基礎技術の紹介を行います。

講演者

大黒 多希子 先生

(疾患モデル総合研究センター 疾患モデル分野/実験動物研究施設)

概要

子宮は、恒常的に遺伝子／タンパク質の発現状態と細胞形態を変化させる非常にユニークな組織である。この変化は、卵巣ホルモンであるエストロゲンとプロゲステロンによって精密に制御されている。特に興味深いのは、卵巣ホルモンは子宮内膜を構成する上皮と間質を各々別々に経時的に制御するが、これに加えて上皮と間質の相互作用もまた子宮の正常機能を保持するのに必要であるということである。つまりこの精密で複雑な機構が少しでもずれると正常な機能が損なわれ、不妊や癌などの疾患を引き起こす。これまでに、ヒト臨床検体や細胞培養系を用いて、ヒト子宮疾患の原因や分子機序の理解が進んでいる。しかしながら、どのような“ずれ”がどのヒト子宮疾患の原因あるいは進行に関わるかを包括的に解析するには、動物モデルの利用が必要となる。特にマウスは、その遺伝子改変技術が突出していることから、疾患モデルの作製に非常に有用であり、我々はこれまで不妊および子宮体癌マウスモデルの作出に成功している。その結果についてお話しする。また我々は昨年度末よりサイエンスコモンズ/金沢学術アカデミーの一員として研究支援を行っており、その活動について紹介したい。

日時

2025年 9月 30日（火） 16:30～17:30

（※セミナー終了後も17:55まで自由に質疑・討論可能です）

場所・参加方法

金沢大学医学部図書館・十全記念スタジオ

会場案内はこちら→

事前登録無（どなたでもご参加いただけます）

